

東日本大震災 ともしび会ニュースレター

2019
April



ごあいさつ

2011年3月11日の東日本大震災から、8年の月日がたちました。東北各地で復興が進み、皆が未来に、そして来年開催の東京オリンピックに向かって歩み始めている中、福島においては原発事故という未曾有の人災により復興の道のりには多くの困難があります。

現在ご支援をいただいている9名の学生のうち6名がこの春社会へ巣立つことができました。彼女たちはいくつもの困難、苦勞を抱えながらも皆様からの経済的な支えの上にたくましい精神力も育み、そして震災と原発事故を体験したことで、いのち、生きる意味、これからの生き方を真剣に考え、自ら生きる力を育み大きく成長しています。ご支援していただいたすべての皆様へ彼女たちからの感謝の思いをここにお届けさせていただきます。

東日本大震災ともしび会 代表 柴山 恵子

「きげんよう。このたびは温かい支援を頂戴いたしました。大変感謝しております。誠にありがとうございました。皆様のおかげでいろいろなことに挑戦でき、大きく成長できました。」

震災時、私の家はぐちゃぐちゃで電気・水道・ガスはすべて止まりました。体育館に避難しに行くことみんな泣いていました。私のお父さんは地震の後なかなか帰ってこず、連絡も取れなかったため安否確認も取れず私も泣いていたのを覚えていますが。さらにドラマや悪い噂のせいで不安が募るばかりでした。突然当たり前前の生活を奪われた悲しみや怒りは計り知れませんが。当時の私はどうなっていたのか、これからどうなってしまうのかという気持ちから、だんだんと内気で消極的な性格になり自分に自信が持てなくなりました。月日は経ち、多くの方々の支援から徐々に元の生活を取り戻すことができました。

高校選択にあたって普通校より自分の好きなことを学べる農業高校に入學しました。卒業後は震災のことや兄弟がいることから経済的問題で進学は厳しいため就職するつもりでした。ですが、高校で自分の好きなことである「食」について学んでいるうちに、もっと学びたいことが多くあることに気づきました。高校在学中に「栄養士」という職業を知り「食を通して多くの人を支えている点に魅力を感じました。私が栄養士になって、支援してくれた方々から支えてもらった分、今度は自分が多くの方々に「食」を通して支えになりたいと考えようになりまし

た。この思いを学校の先生に勇気を出して打ち明けてみると校の聖母短期大学を進めていただき、ともしび会の皆様のおかげで金銭面を気にせず、入学を考えることができました。

現在私は、栄養士になるために「一生懸命勉強しつつ、少しでも誰かの支えになりたい」と考え、ボランティア活動に力を注いでいます。来年はミリアムローターアクトクラブというボランティアサークルの部長を務めます。消極的な私にとって部長という存在は無縁であり、自信もないので無理だと考えていました。しかしこの1年で多く

の人と交流し多くのことを体験し学んだ私は考え方が変わり、誰かの支えになりたい役に立ちたいという思いは人一倍あつたので挑戦してみることにしました。また福島の風評被害を少しでも払拭するための活動にも取り組んでいます。また、私のように遠方からの入学を考えている子や、一人暮らしを考えている子たちの手助けができないかと、せいたんナビに参加しオープンキャンパスの手伝いをしています。

こんなに積極的にいろいろな事に挑戦できるようになったのはともしび会の皆様のおかげです。

私の夢は「管理栄養士になることです。食で人々の健康を支えられるように頑張ります。またどこかで災害が発生したら、被災地で栄養・食生活の面で人的支援、物的支援を行いたいと考えています。震災時私の地域にも栄養士が支援していただけることを促したり、運動することを勧めたりできるだけ何かを食べるように声掛けをしている姿にあがれを抱きました。栄養士免許を取ったら私もこのような活動に積極的に取り組みます。」

(生活科学科食物栄養専攻一年生)



この度は大変お世話になりました。昨年から温かいご支援をありがとうございます。

校の聖母短期大学で二年間学び、少しずつですがなりたい自分に近づいていると実感しています。学内実習ではカフェテリアの厨房に入りました。短大に通っている学生や先生方、外部の方に美味しい学食を提供できるように技術や知識を高める努力をしてきました。また、学外実習では栄養教諭の資格を獲得するために小学校に二度実習に行かせていただきました。一回目は、六月に大量調理の現場で実際に給食を作ったり、給食前にお時間をいただいた児童に五分ほど衛生面についてプチ授業を行ったりしてきました。二回目は、九月に実習最終日に四十五分間栄養の授業を実際に行いました。五日間という短い期間でしたが、児童や先生と積極的にコミュニケーションを図り、授業をした時には児童や先生に支えてもらう場面があり、本当に助けられました。

正直なことを言うと、私は子どもがあまり得意ではありません。それでも、最後まで頑張りぬくことができたのは、子どもの素直な姿を見て励まされたからだと思います。栄養教諭という資格に挑戦しなければ、素直でパワーを与えてくれる児童に出会うことはできなかったです。得意ではないことに挑戦し、それを克服することができたことと思います。待つているのではなく、自分から一歩を踏み出すことで道が開けて新しい自分に出会えることを学びました。東日本大震災のあの日から八年を迎えようとしています。私の地元はまだ復興の途中です。少しずつ変化していく故郷を寂しくも嬉しくも思いながら大切に過ごそうとしています。仮設住宅から新しい家に移り、これからだなど感じつつ、中学校から大学一年生まで沢山お世話になった仮設住宅も忘れることができません。長かったようであっという間に過ぎていった

この数年は、私の人生を確実に豊かなものにしてくれました。どんなに辛くても苦しくても、周りには支えてくれる人がいました。その中にともしび会の皆様がいいます。短大でも苦しいと感じることも楽しいと感じることも沢山ありました。そのように感情豊かに過ごせたのもともしび会の皆様の温かいご支援があったからこそです。

就職先も地元で無事に決まり、栄養士になってお世話になった地域の方々に恩返しをするという目標が近づいてきています。その責任感と希望が混ざっていて、不安もありますが、今まで培ってきた力を信じて精進していきます。

最後になりますが、今まで何不自由ない生活を送ってへることができたこと、心から感謝申し上げます。校の聖母短期大学に通い、ともしび会の皆様に出会うことができて良かったです。私はとても幸せ者です。ありがとうございます。

(生活科学科食物栄養専攻二年生)

きげんよう。

この度はともしび会の支援感謝申し上げます。

東日本大震災から八年が過ぎようとしています。あの地震で私の家は屋根の瓦は崩れ落ち、外壁はひび割れ、内壁も剥がれ落ち、家は少し傾き、お風呂のボイラーも壊れ、その他いろいろな所が壊れていました。私の家は専業農家です。原発事故での風評被害で収入がこれまでの半分以上少なくなっていました。今でも良くなりません。それでも私の為に両親、ともしび会の皆様方が支えてくださったおかげで、何不自由なく学校、日常生活を送れることができる事を感謝致します。これからも、自分の夢に向かって勉学に集中し、いろいろな知識を校の聖母短期大学で学び、学んだ事を福島島の復興に役立てたいと思います。皆様方に心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひし

ます。

(キャリア教養学科一年生)

ともしび会の皆様、この度は温かいご支援を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。

皆様のご支援に感謝しております。

私は校の聖母短期大学に二年間通った様々なことを体験することができました。カナダ研修に参加をした際には貧困者向けのレストランで食事の配膳、現地のホームレスの宿泊施設でベッドメイキングをしました。ボランティア活動を通して出会えた人たちとの縁を大切にしていきます。また、シスターや子どもたち、現地の学生とも触れ合うことができました。日本とカナダの食や文化の違いに触れることができ、とても貴重な楽しい時間を過ごすことができました。学校では、ダンスサークルに所属し二年間仲間たちとダンスの練習に没頭し、イベントに向けて頑張りすべての舞台を成功させることができました。学生生活を存分に味わうことができて生涯残る財産になったことに違いありません。ともしび会の皆様、本当にありがとうございます。

私の家は当時、福島第一原子力発電所から約四キロ圏内にありました。東日本大震災の影響により放射線物質の被害を受け、元の家にはあの日以来帰れていません。福島県浜通りは津波の被害はもちろんです。放射線の被害も強く、震災から八年が経つ今でも、震災復興の日処は立っているがなかなか進んでいるとは言いきれません。そんな中ではあります。私は保育士を目指してこの校の聖母短期大学へ進学をし、日々勉強に励んできました。震災から学んだ命の大切さと当たり前の日常のありがたみを胸に刻み、前向きに生活をしています。大学に入り一人暮らしを始め、新しい生活、新しい友達、全てが初めてで不安も最初はありましたが、

友達もできて生活にも慣れ毎日充実した日々を過ごしています。家族とも離れながらも連絡はとりつつ、連休があれば実家に帰って家族との時間も大切にしています。支えていただいたりの方々への感謝の気持ちを忘れずに、出会いを大切にこれからも強く生きていきます。

震災当時は小学六年生でありました私はいま大学生です。成人式を控え、震災を共に経験した仲間である地元の友達と久しぶりに再会ができるのでとても楽しみです。

震災で失ったものもありますが震災のおかげで学んだことも沢山あります。それは一言では言い切れませんが、命の大切さ、家族、友達大切さ、気づけばいつも周りに支えられていました。それは今も変わらず、感謝の気持ちでいっぱいです。どれだけ感謝を伝えられるか、時間はかかっても必ずその分は返したいという思いがあります。この気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。今までに経験してきた全てが時間が経っても色褪せてしまわないように思い出を大切にしていきたいです。今でも離れて生活していた時間を取り戻すかのように、離れている地元大熊町の友達と連絡をとりあっています。素晴らしい人たちと出会えて幸せです。この先も長く付き合っていくのだからと思います。自分も成長させてもらっているのだから友達とのつながりを大切にしていきます。沢山の友達と支え合いながらこれからも頑張ろうと思えます。今回、このような形で感謝の気持ちを伝えさせていただきます。改めてともしび会の皆様には深く御礼申し上げます。

(生活科学科福祉子ども専攻)

子ども保育コース二年生

1

の度は東日本大震災ともしび会支援対象者に採用していただき、本当にありがとうございました。私は二〇一二年三月十一日に起きた東日本大震災で飯館村から福島市へ避難してきました。震災当時、私は十一歳でした。私は七人兄弟で現在九歳の弟はまだ二歳、現在七歳の末の弟は震災当時母のおなかの中にいました。福島第一原子力発電所が地震と津波の影響で、放射性物質が放出されてしまい、まだ幼かった私には放射能の恐ろしさは理解できませんでした。

しかし、放射能の影響でせっかく仲良く離れた友人も県外の遠くの方へ避難してしまい、私の家は祖父父母が農業を営んでいたため家畜も多く飼っており、飯館村のブランド牛でもあった飯館牛や鶏は飼うことができなくなったため殺処分されました。犬も三匹飼っていて犬とも離れ離れになってしまったことがとても辛かったです。預かってくれるというセンターへ預けたのですが、センターの場所がとても遠く、会いに行くことも引き取りに行くこともできません。そして現在生きているのか誰かに引き取られ幸せに暮らしているのかもわかりません。当時もう老犬になりつつある犬もいたため、もしかしらもう死んでしまっているかも知れない。とても考えられません。

しかし、一度も忘れたことはありません。会うことができなくても私の心の中では、三匹の犬たちは元気に駆け回っています。小学校は川俣中学校の校舎を半分お借りし、中学校一学期までは川俣高校の校舎をお借りし、二学期から卒業まで飯野町に建設した仮設の校舎で過ごしました。故郷である飯館村の飯館中学校へ足を踏み入れることなく、中学校生活が終わっていました。

2

東日本大震災で辛かったこと、悲しかったこと、苦しかったことは本当にそれぞれ多くあると思います。しかし、東日本大震災が無かったら出会うことのなかった友人がたくさんできました。本当に恵まれていると感じるくらいに優しく私の毎日を楽しくさせてくれる友人たちです。そして、知ること無かったことや学びもありました。桜の聖母短期大学へ入学して子ども保育コースに在籍し、また新しい友人と出会い、自分の夢について幅広く充実して学べることを本当にうれしく思っています。去年の十月に行った観察実習では、初めての実習で右も左もよくわからずたくさん失敗し五日間本当に大変でしたが、次の実習へ繋がる学びを得ることができた実習になりました。また、まだまだ学び足りていないことも実感しました。二月に保育実習があるのでその際には幼稚園と保育園の一日の流れの違い、〇歳児から六歳児までの幅広い年齢の子とも関わり、保育者はどのように関わっているのかということをしっかりと観て、参加して自分自身の学びへと繋げていきたいと思えます。支援していただいているともしび会の皆様のおかげでこの一年間楽しく充実した学校生活を送ることができました。本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。

（生活科学科福祉子ども専攻
子ども保育コース一年生）
きげんよう。この二年間、ともしび会の皆様には大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。
ともしび会の皆様を支えてくださったおかげで、将来の夢である管理栄養士になるということに一歩近づけました。管理栄養士として責任感を持ったみんなから頼られる食のスペシャリストを目指して日々勉強を頑張っています。栄養を通して人々の健康に貢献し、人の役に立てる人に喜んでもらえる、そう思ったことに喜びを感じられる栄養士になりたいと思っています。また、献立や栄養相談を行う中でコミュニケーションを身につけ、調理現場ではみんなを引っ張っていく存在になり、臨機応変に対応できる、リーダーシップのある栄養士になるということが目標です。

（生活科学科福祉子ども専攻
子ども保育コース一年生）
きげんよう。この度は、約一年間に渡り温かいご支援をありがとうございました。ともしび会の皆様のおかげで三月に桜の聖母短期大学生活科学科食物栄養専攻を無事卒業することができました。

3

（生活科学科食物栄養専攻二年生）
私がかつていたこと、自分の将来の夢のために高校卒業後進学を選択できたこと、すべてともしび会の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。私は、東日本大震災のとき当時小学六年生でした。小学校の体育の授業が終わった時、立ってられないほどの大きな地震が急に起こり、別世界に入ったような感覚で、「家族に会えないまま死ぬのかな」と涙が止まらないくらい長くて大きくて恐ろしい地震でした。それ

（生活科学科食物栄養専攻二年生）
それから、学校から親に連絡がいきわたり、迎えに来てくれるまで吹雪の中、学校の広い校庭で待つていました。両親は仕事だったため迎えはこれませんでした。両親が迎えに来てくれて無事家に帰ることができました。帰ってみると、生まれた時から住んでいた家が全壊していました。家は傾き、玄関もふさがれ、入れない状況で、約一か月間車の中で生活していました。あの日のことはいつになっても忘れられません。当たり前前の生活がどれほど幸せか。当たり前前に食べている食事がどれほど重要なことで、幸せなことか。私は、この桜の聖母短期大学に入学した一つの理由として、食を通してたくさんの人を幸せにしたい、助けて、みんなの役に立てる栄養士になりたいと強く思ったからです。その夢もあと少しで叶えられます。すべてともしび会の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。四月からは社会人になります。栄養士になれたこと、学校に通えて夢を叶えられたこと、ともしび会の皆さんへの感謝を忘れず、食を通してたくさんの人を笑顔にできる栄養士になりたいと思えます。

（生活科学科食物栄養専攻二年生）
私がかつていたこと、自分の将来の夢のために高校卒業後進学を選択できたこと、すべてともしび会の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。私は、東日本大震災のとき当時小学六年生でした。小学校の体育の授業が終わった時、立ってられないほどの大きな地震が急に起こり、別世界に入ったような感覚で、「家族に会えないまま死ぬのかな」と涙が止まらないくらい長くて大きくて恐ろしい地震でした。それ



と

もしび会の皆様、二年間という長い期間の中たくさんのご寄付をいただき誠にありがとうございました。卒業を控え、改めてこれまで支援してくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

この二年間、皆様のご支援のおかげで充実した最後の学生生活を送ることができました。無事に就職活動を終え、希望した企業から内定をいただくことができました。震災当時の私の状態やこの校の聖母短期大学に入学する前の私は、受かることができなかったように思います。

今の私がいるのは校の聖母短期大学での様々な経験や人との出会いによるものだと思います。二年間の支援のおかげだと感謝しています。震災当時の私は環境の変化に追いつくことができず、今思い返してみると突然故郷を失ったことを受け止めきれずに心の整理がつかなかったのだと思います。あの頃は、どうしてこの中学校に通っているのだろう、私だけ出身が違う、話に入ることができない、などの不安やそこから来る思い込みの中毎日を過ごしていました。そうした生活の中、学校に行くことが私の中で苦痛になり、他人との交流を恐れるようになりました。それは家族に対しても例外ではなく、家についてもほとんど会話をせずに自分の殻に閉じこもっていました。自分でもそんな自分が情けなく許せなくて、人からの軽い発言でも過剰に反応することがありました。そんな私に家族は無理に外に出したり、学校に行くように諭したりせずに、とにかく私を見守り、回復を待ちながら

も力ウンセラーやソーシャルワーカーと話す機会を作ってくれました。そして私も少しずつ学校に行くようになり、同じ状況の仲間がいることを知りました。互いに声を掛け合い、勉強を教えあい、学校に行くことが当たり前になりました。

ありましたが、少数でないと固まってしまい、教室に入ることもできない状況にある私は家族の勧めもあり、東和にできた少人数学校の中学校に転入しました。やはり最初は学校に行くことに抵抗がありましたが、いい先生にも出会えることができ、教室にも足を運ぶこともできました。高校では、少人数の高校を選び、毎日通いました。進学は迷いましたが、支援体制も整い、就職率も高く、様々な専門知識を学ぶことができ校の聖母短期大学を選びました。

今では、校の聖母短期大学に入学してよかったと思っています。今まで経験することができなかった様々なボランティアやアルバイト、マナーの授業、一人一人に寄り添った就職支援などこれからの生活にも活かすことができることばかりを学ぶことができました。

これらすべての経験を活かし、私は今まで様々な面でお世話になってきた地域に恩返しができるようにと、地域に密着した企業を選びました。

ここまで前向きに学生生活を送ってこられたのも、支援をしてくださったともしび会の皆様のおかげです。皆様の支援があったからこそ、家族の負担を少しでも減らすことができ、二年間という限られた時間を悔いのないように過ごすように目標をもって生活することができました。改めて皆様にお礼を申し上げます。二年間という期間、温かいご支援を本当にありがとうございました。

(キャリア教養学科 二年生)

きげんよう。

私は今年度校の聖母短期大学を卒業します。二年間、ともしび会の皆様にご支援頂いたことには感謝の気持ちでいっぱいです。

短大入学直後は学費のことで不安がとて大きかったことを覚えています。奨学金を借りていたのですが、卒業後ちゃんと授業料を短大に納められるかなどです。私は短大卒業後、四年制大学に編入する予定だったのでなおさら心配でした。けれど、ともしび会の方々から支援金を頂いていたので、生活費を浮かすことができた月は余ったお金を貯金にまわすことができました。貯金はまだあまり溜まっていませんが、貯金をする習慣ができました。

また、在学中は三つのアルバイトに関わり、物事への対応力が入学前に比べ、高まったと思います。その中の一つにコンビニのバイトがあります。コンビニでのバイトは非常に大変でした。トイレ掃除やゴミ処理に手袋を使わずに業務をこなすことなどが苦しかったです。

しかし、このような経験のおかげでお金を稼ぐことの大変さ、職業の選択肢を限定しないために様々なスキルを身につけておくことの大切さを学びました。

また、コンビニではレジ打ちのスキルも身につけられたので、今後役に立つときがあるのではないかと考えます。短大卒業後は、山形大学に進学します。山形大学では高校の英語教師になって、生徒に異文化を理解するための能力を育ませるといふ夢を叶えるため勉学に邁進していきます。

私が学生に異文化を理解するための能力を身につけて欲しい理由は、自分にとつて理解できない行動に出会った際、それをすぐに否定するのではなく、何か理由があるのかもしれないと俯瞰的な視野で考えて欲しいからです。

例えばそれがどういふ状況か説明しますと、公共の場でいきなり叫ぶ人がいた時などです。微力なのは承知ですが、そついった人を見た際、

蔑視するような人を減らしていきたいです。最後に、二年間本当にありがとうございました。これからの人生でこの感謝の気持ちを忘れることはありません。

(キャリア教養学科 二年生)

事務局から

今年度もたくさんのご支援をありがとうございました。

皆様からのお力添えを励みに今後も未来ある福島の子どもたちを応援し、寄り添ってまいります。

末筆となりましたが、皆様からお寄せいただきましたご厚情に重ねて御礼申し上げますと共に、皆様の上に神様が豊かにお報いくださいますようお祈り申し上げます。

感謝のうちに

ともしび会事務局 熱海 紀子
齋藤 桑子

東日本大震災 ともしび会事務局

福島県福島市花園町3番6号
学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム
法人事務局 熱海 紀子・齋藤 桑子
TEL:024-531-6805
E-mail:s-soko@sso.ac.jp

ご寄付振込先

▶ ゆうちょ銀行: 02230-4-126091
東日本大震災ともしび会寄付金口
▶ 東邦銀行 本店: 普通預金3682660
東日本大震災ともしび会 代表 柴山 恵子